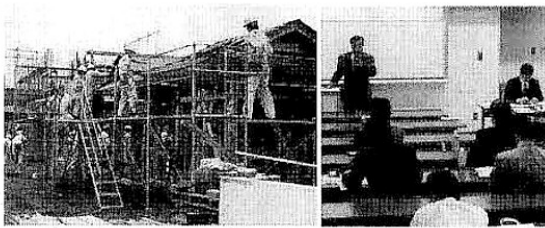


実践教育など討議 建築学会特別研究委ら ものづくり大学でシン



ものづくり大学の実習風景

あいざつする秋山委員長

日本建築学会「建築教育の帯給構造と建築職能の将来像特別研究委員会」現場人材の育成法ワーキンググループは23日、ものづくり教育シンポジウム2008（ものづくり大学実習見学）を埼玉県行田市のものづくり大学で開催した。実践教育訓練研究協会の建築・デザイン系専門部会が共催した。シンポジウムには、教育訓練に携わる学校関係者や、ゼネコン、サブコン等の業界関係者、学生ら約80人が参加。第一部で同大学の実習風景を見学したほか、2部では7人のパネリストによるパネルディスカッションが行われ、実践教育の事例発表を踏まえた議論が行われた。

シンポジウムの冒頭、主催者を代表して建築学会の秋山恒夫特別研究委員長が「今、建設業は若者に魅了のない産業となっている。深刻なのは、未来の建設現場を支える若者の減少であり、次世代教育をどうするか業界共通の大きな課題となっている。その意味で、各地で日々、教育を実践されている関係者が、一堂に会して討議することは画期的な意義を持つ」と述べ、今回の討議内容を特別研究会の成果にも反映させていくとの考えを明らかにした。

討議では、技術者教育と技能者教育のあり方、技能者（職人）の地位や年収について活発な議論が展開された。